

児童生徒の「主体的な学び」を促す授業実践

1 基本情報

◇各教科等 遊びの指導（おはなし）

◇学部・学年 小学部 第1・2学年1組

◇単元名 お話遊びをしようⅡ—おおきなかぶ—

◇単元の目標 ・教師と一緒に話の流れに沿って、物を運んだり、届けたり、探したりするなどの活動を行うことができる。

・具体物の名称、絵カードの対応ができる。

・お話遊びを通して、教師や友だちと同じ場所で遊ぶことができる。

・お話遊びを通して、教師と一緒に集団での遊びに参加することができる。

◇付けたい力 友だちを誘って、一緒に遊ぶ力

◇本時の目標 友だちを誘ったり、友だちに誘われたりして、劇遊びに参加することができる。

◇児童の実態

本学級には、第1学年の男子児童2名、第2学年の男子児童1名、女子児童2名が在籍しており、そのうち4名の児童が知的障害を併せ有する自閉症である。ほとんどの児童に、友だちと一緒に遊びたいという思いはあるが、どのように誘って良いか分からず、玩具を無理やり取ったり、腕を力強く引っ張ったりすることがある。

2 期待する児童の姿

友だちを誘い、一緒に劇遊びをする姿

3 指導者が捉えた児童の「主体的な学び」

児童は、衣装に着替えることが楽しみだったようで、授業が始まる時間には全員が着席していることが多かった。授業は、絵本からパネルシアター、そして劇遊びへと次々に世界が広がるよう構成した。同じ内容の繰り返しであるが、話の見せ方を変えることで、児童は集中力が途切れることなく学習に参加することができていた。

劇遊びの中で友だちに誘われる場面では、次に自分が誘われることが分かって、立ち上がりたり手を挙げたりして期待感を持って学習することができた。しかしながら、友だちを誘うことについては、「来て」などの言葉が定着しにくく、課題が残った。

今後は、「友だちの名前を呼びながら誘うこと」や「教師の支援を受けることなく誘うこと」を目標に、授業内容を発展させていくとともに、授業以外の生活場面でも、実際に友だちを誘うことができるよう、指導を続けていきたい。